

東南アジア学会第101回研究大会(2019年11月23日~24日)シンポジウム

東南アジアと 日本の長期変動

—人口変動・労働移民・少子高齢化

The Longue Durée in Southeast Asia and Japan: Demographic Change, Labour Migration, and Aging Societies

過去千年の間に東南アジアと日本が経験した長期変動を比較し、近年急速に進展する人口変動、労働移民の流入、少子高齢化を考える。国境線にとらわれずにアジアというグローバルな空間を設定し、各地で相互に関連して進んできた長期変動のなかで現在を理解する。



2019年 **11/23** **土** 13:00~15:45

静岡県立大学草薙キャンパス 大講堂

静岡市駿河区谷田 52-1 (JR 東海道線草薙駅・静鉄草薙駅から徒歩 15 分)

参加費無料

非会員でも参加可能
予約不要

スケジュール

- 13:00-13:05 趣旨説明 司会 玉置 泰明(静岡県立大学)
- 13:05-13:30 日本列島における人口の長期変動と文明システムの転換 鬼頭 宏(静岡県立大学)
- 13:30-13:55 人口と人の移動から見た東南アジアの長期変動 桃木 至朗(大阪大学)
- 13:55-14:20 高齢化する東南アジア社会は日本と同じ道をたどるのか—タイの事例から 速水 洋子(京都大学)
- 14:20-14:45 東南アジアから日本への「労働力」と「人」の移動:1980年代以降を中心に 高畑 幸(静岡県立大学)
- 14:45-15:15 発表者による相互コメント
- 15:15-15:45 会場からの質疑と応答

主催：東南アジア学会 共催：静岡県立大学国際関係学研究科附属グローバル・スタディーズ研究センター
研究助成：静岡県立大学教員特別研究推進費(令和元年度・代表・下條尚志)「東南アジア学会第101回研究大会」